

平和の火 神戸に

キャンドルナイトで使用

韓国人の魂も

韓国で被爆者の多く 灘区であった。

住む陝川シヤン川に届けられた広島原爆の残り火「平和の火」が持ち帰られ、近畿地域で開くキャンドルナイトの実

施者に火をつけ渡す採火式が9日夜、神戸市島に出征していた故山



韓国へ渡った「平和の火」を採火する参加者
—神戸市灘区で

在韓被爆者の思いに触れようと、大阪市の市民団体が日韓併合100年を機に企画した。

「平和の火」は、広

本達雄さんが、原爆で亡くなった叔父の遺品代わりに故郷の福岡県星野村（現八女市）に持ち帰ったもので、現在は八女市が管理をしている。

市から許可を得た市民団体「キャンドルナイトワンピース実行委員会」が在韓被爆者と交流し、平和の火を一緒に囲んだ。再び日本に持ち帰った平和の火は、全国で開催するキャンドルナイトで用いられる。この日は協作者の携帯カイクロに思いが宿った火をともし渡した。

実行委の吉沢武彦代表は「原爆の残り火には、当時広島にいた韓

国の人たちの魂もこもっている。火を見つめて思いを寄せてほしい」と語った。

キャンドルナイトは日韓両国で冬至前後に開催され、日本では全国57カ所で実施予定。

【井上稿】